

# 思い出づくしの10日間

中塚 康太

2016年5月に派遣選考試験が行われましたが、面接での手応えからして不合格を確信していました。しかし光栄なことに見事合格を頂き、尼崎市代表として8月21日から30日の10日間のドイツ派遣が決まりました。私自身英語はあまり得意な方ではありませんし、大学でドイツ語を履修していますが、まだ発音や挨拶の段階だったのでとても不安でした。私は趣味がサッカー観戦なので本場ドイツへ行けることにとてもワクワクしていました。ここではアウクスブルクでの生活やドイツのサッカー文化についてを中心に触れていきたいと思います。

## 11時間かけてドバイへ、さらに5時間かけてミュンヘン空港へ

21日夜に関空を出発し、11時間のフライトを経て経由地ドバイへ到着しました。わずか4時間の滞在ではありましたが、オイルマネー効果を十分に感じることができました。その後、5時間かけて目的地であるドイツ・ミュンヘン空港に到着しました。真夏の日本とは異なり、とても快適な気温でした。

## アウクスブルクでの生活

1日目は、ミュンヘン空港に到着し、昼食を済ませたのちに、ホストファミリーとの対面式がありました。家族の家へ戻ると長男のTobby(トビ-)がサイクリングへ連れて行ってくれました。地面は石畳で、建物は言葉で表せないほど立派で、長いフ

ライトを経てドイツへ来たことを実感できました。

2日目は待ちに待ったFCアウクスブルクのスタジアム見学の日です。スタジアム隣接の広大な駐車場の地下には井戸が設置されており、世界初のCO2に配慮したスタジアムとして注目されています。スタジアム内に入り、ピッチサイドの選手ベンチに座らせていただき、スタジアムについての説明がありました。その時はリグ開幕前でまだ準備中でしたが、綺麗なピッチを目の前にして、選手や監督になれた気分でした。



FCアウクスブルクのスタジアム

続いて、記者会見などを行う記者室、インタビュースペースを見ました。ピッチ入場口前には卓球台が設置されていました。選手の間で人気らしく、オフ期間中によく息抜きとして遊ばれているそうです。練習場では選手たちが練習しており、日本代表FWの宇佐美貴史選手もいました。その他

にもテレビでよく見る選手が勢ぞろいでも興奮しました。みんな宇佐美選手とツ - ショットを撮ってもらいました。この時に撮った集合写真は翌日の新聞に掲載されました。その後はアウクスブルク市の市庁舎へ向かいました。黄金の間というスペースはその名の通り金色に装飾されとても煌びやかでした。



アウクスブルク市庁舎 黄金の間

3 日目はフッガ - 長屋へ行きました。以前に大学の社会学の講義で紹介され名前は知っていたので興味がありました。これは世界初の社会住宅で、入居には様々な条件を満たす必要があり、アウクスブルク市民権を持つ、カトリック教徒である、既婚者(今は外れている)、前科が無い、

本人の責任に関係なく経済的貧困にある、この5つが条件であります。観光地となった今でも入居者はいるらしいです。歴史ある建物を今もなお使用できていることは素晴らしいなと思いました。その後訪問したアウクスブルク大学はとにかく敷地面積が広く、構内に川が流れているなど自然を感じました。

4 日目に訪れたダッハウ強制収容所では迫害や人種差別があった過去を肌で感じました。名前がナンバ - に変わり、人権を失いました。広場脇の芝生に立ち入ると射殺され、点呼では1人でも足りなければ同じ棟に収容されていた人たちは何時間も立たされてきました。今では先祖が収容されていた棟の跡地に花を添える人もいます。午前中はこの見学で気分がかなり落ち込みましたが、午後の保育園見学で何とか落ち着けました。その後立ち寄ったショッピングモールにはなんと回転寿司がありました。日本でよく見るネタもありましたが、海外特有のカラフルなお寿司が目を引きました。ホストファミリーに尋ねたところ、月に何度かお寿司を食べるそうです。

5 日目はブッペンキステという人形劇場を見学しました。ここの人形はすべて手作り、10年間乾燥させた菩提樹を使用しています。公演は1日2回で子供向けの作品と大人向けの作品があります。多くの作品がTVでも放送され、尼崎市のつかしんでも出張公演が行われました。

6 日目はホストファミリーと過ごす一日で、私たちは近所のパレ - ドを見て、その後サッカー - の試合を見に行きました。まずそのパレ - ドとはトビ - が言うにオクト - バ - フェストの前夜祭のようなものらしいです。消防車が水を撒いたり、子供たちが駄菓子を配ったり、パン屋がプレッツェルというパンを配ったりととても盛り上がっていました。パレ - ドに参加していた現地の方たちは私を見て日本からの旅行客だと知ると、お菓子やパンなどを分けてくれました。そして「ウザミ(宇佐美)!!」と知っている日本語を連呼していました。

パレ - ドが終わり、トラムという路面電車でスタジアムへ向かいました。トラムの車内にはフリ - Wi-Fi が通っていました。荷物はハンドバックのみOK、飲み物の持ち込みは禁止でした。試合は FC.Augsburg 対 Wolfsburg の一戦で、アウディとフォルクスワ - ゲンのスポンサ - 対決としても注目されていました。購入した席は特に激しいサポ - タ - が集まるゴ - ル裏なので立ち見席でした。チームユニフォームを着ている人が大半でしたが、中には民族衣装を着た人もいました。トビ - に聞くと、スポーツ観戦やパーティーでよく着るそうです。客席にはビ - ルの売り子がいました。飲み物の持ち込みが禁止されているのは、もちろん安全面の考慮もあると思いますが、このビ - ルの売り上げを上げるためでもあるのではと私は考えます。



ビールの売り子

ゴ - ル裏の応援は迫力満点で、常にチーム応援歌が歌われていました。スタジアムの屋根で歓声が反射してスタジアム内に籠り、まるで地響きのような感じでした。ここでもドイツ人の親切さを感じました。私が旅行者と分かると、小さな応援旗をくれたり、

ビ - ルをくれたり(飲んでいませんが)、FCアウクスブルクについて詳しく教えてくれました。試合は完全に相手チームの流れで進み0-2で敗れました。宇佐美選手は10分間のみの出場となり持ち味を出し切れませんでした。しかし数日前に目の前で見た選手がピッチで走っている姿にはとても感動しました。



試合の様子

試合後はそのままビールの祭典へ向かいました。私はまだ未成年なのでビ - ルは控えていましたが、有名アーティストが招かれるなどライブのような盛り上がりでした。そこには移動遊園地が隣接しており、本格的なアトラクションが数多くありました。

7 日目はノイシュヴァンシュタイン城へ行きました。城へは長い坂道が続いていますが、馬車で移動できます。カタコトと蹄が音をたて、心地よい風が吹き、ゆらゆらと揺られて、とても幸福を感じました。

8 日目は、いよいよドイツ最終日です。そこから別行動となる長浜市使節団を見送って、尼崎市使節団もホストファミリーと涙ながらにお別れをし、ミュンヘンへ向かいました。ミュンヘンではBMW本社やオ

オリンピックで使用されたスタジアムなどを見学しました。

### 終わりに．．．

今回のアウクスブルク青年団派遣プログラムに参加させていただき、本当に感謝しております。異国の言語や文化を学び吸収できただけでなく、人として成長できたのではないかと思います。ホームステイ先でドイツ語で会話するなんて不可能だと心配でしたが、英語を交えてうまくコミュニケーションを取ることができました。何事も積極性がものを言うのと改めて感じました。ホストファミリーや現地で知り合った方と今でもSNSでやり取りしています。トビは悩み事も相談できる大切な友達です。

最後になりますが、この派遣に際し、尼崎市役所や青年団の皆さまをはじめ多くの方々にご多大なご協力をいただきました。この派遣で得た経験を残りの学生生活に生かしたいと思います。ありがとうございました。

